

令和元年度 第2回宇都宮市行政改革大綱策定懇談会 会議記録

■ 日 時 令和元年8月8日(木) 午後3時30分～5時00分

■ 場 所 宇都宮市役所14B会議室(本庁舎14階)

■ 出席者

1 委員

阿久津委員, 入江委員, 岩井委員, 臼井委員, 大澤委員, 大島委員, 太田委員,
小栗委員, 片山委員, 木村委員, 児玉委員, 坂本委員, 中村委員, 畠山委員,
檜原委員, 藤井委員, 古澤委員(五十音順)

※ 欠席: 神林委員, 仙波委員, 丹羽委員

2 事務局

行政経営部長, 行政経営部次長, 行政改革課長, 行政改革課係長, 行政改革課担当者

■ 会議経過

1 開会

2 会長あいさつ

会長

- ・ 本年度2回目の懇談会にお集まりいただき, ありがとうございます。
- ・ 今回の会議でも, 委員の皆さんがお持ちの知見を生かした様々な御意見を賜りたいと考えており, 具体的に問いかけさせていただきたい。
- ・ 時間は限られているが, 進行を工夫しながら進めたいと思うので, 忌憚のない御意見をよろしくお願ひしたい。

3 議事

「(仮称)第6次行政改革大綱」の方向性等について

委員

- ・ 「行政改革大綱」で行政経営の基本方針とし, 具体的な取組を「行革プラン」と位置付けていくということであるが, 全体像がわかりにくい。「行政経営」と「行政改革」の二つの言葉の意味するところが伝わりにくいように感じる。
- ・ 宇都宮市では, 平成15年度に行政経営指針が策定しているが, この指針は, 現在も有効なものか。

事務局

- ・ 「行政経営」と「行政改革」については、「行政経営」の方がより広い概念と捉えており、資料2ページに図でお示した「今後の行政改革の範囲」の縦の2軸、すなわち、「行政サービスの提供」とその「提供基盤」がその基礎であると認識しているところである。一方、「行政改革」とは、それらを社会環境や市民ニーズに適したものに変えていく「アクション」であると捉えている。
- ・ なお、平成15年に策定された行政経営指針は、第3次の「行政改革大綱」に当たるものであり、当初、計画期間を定めない「指針」として策定したが、社会環境の変化を踏まえ、平成22年に第4次の行政改革大綱として改定した経緯がある。

委員

- ・ 新たな大綱を「指針」とする場合、「変えていく」というメッセージが伝わるか懸念もある。

委員

- ・ 資料2ページの図「今後の行政改革の範囲」に記載されているとおり、総合計画では、「将来のうつのみや像」として、「輝く人の和 つながるまちの環 魅力と夢の輪 うつのみや」を掲げているが、「魅力あるうつのみや」などの方がよかったのではないか。

委員

- ・ 資料3ページでは、次期大綱について、「必要に応じて改訂を行う」とあるが、4ページでは「4年後に改訂を行う」とあり、整合が取れていないように感じる。
- ・ また、大綱の計画期間については、社会環境変化が速い中、8年間では長いように感じる。

副会長

- ・ 計画期間を8年間のしたのは、総合計画に合わせた方針とするためであり、その上で「行革プラン」を適宜見直ししながら、様々な変化に対応をしていくという趣旨ではないか。

事務局

- ・ 副会長の御意見のとおり、次期大綱はより「大括り」な方針として、その計画期間を総合計画に合わせて8年間とするとともに、3ページに記載のとおり、4年後に改定する総合計画を踏まえ、必要に応じて改訂していくことを想定しており、「行革プラン」は、具体的な取組を定めるアクションプランとして適宜見直ししながら、4年後に全面改定することを想定している。

委員

- ・ 次期大綱は、「大括りの方針」とするとのことであるが、これまでの大綱と比べて、どの程度、「大括り」になるのか。

事務局

- ・ これまでの大綱では、計画期間で何に取り組んでいくのか、ある程度、具体的な取組を盛り込んでいたところであるが、次期大綱では、具体的な取組を「行革プラン」に委ね、基本的な考え方や大きな方向性を盛り込んでいきたいと考えている。

委員

- ・ 次期大綱の計画期間を総合計画に合わせるという考え方は理解しやすい。
- ・ そこで大綱の名称も総合計画を踏まえてはどうか。総合計画では、「未来都市うつのみや」を掲げていることから、行政経営に係る方針であれば、例えば、「未来行政うつのみや」と考えることもでき、前向きな改革のイメージを伝えることができるのではないかと思う。
- ・ また、「行革プラン」については、実際の行動計画であることから、「行革アクションプラン」など、想像しやすい名称がよいのではないか。

委員

- ・ 私は、「行政改革」の目的は、「いかに市民を幸せにするか」ということだと考えている。「便利さ」や「スピード」ももちろん重要ではあるが、「幸福度」こそが重要ではないか。
- ・ 日本では、「健康度」に係る指標は世界トップレベルだが、「幸福度」は低くなっている。社会全体で格差が広がっている中、必要な支援が十分に届いているとは言い難く、社会の寛容さも失われているように感じており、今後の行政改革では、「幸福度」の追求が必要であると考えている。

委員

- ・ 「時代潮流等」から「実現に向けた視点」までの、つながりがわかりにくい。また、「重視する価値」のそれぞれの要素は、違いがわかりにくい。
- ・ 自治会やまちづくり推進協議会などでは、「地域まちづくりプラン」の策定をはじめ、地域の将来を議論しているが、地域だけではできないことは数多くあるため、行政は支援していく体制づくりをお願いしたい。
- ・ このほか、「子どもや教育に係る人材確保」や「ボランティアの役割や責任」など議論していかなければならないことは多く、この内容でよいのか検討が必要であると考えている。

委員

- ・ 市民に身近な問題として、自治会活動をはじめ、地域の担い手の減少があり、地域の「互助」をどのように維持していくかは、大きな課題である。
- ・ 公共施設の利用をはじめ、夜間や休日に利用できない行政サービスも多い。市民が使いやすいサービスは、「市民の幸せ」につながっていくことを理解してほしい。
- ・ また、世間では、高齢者の運転免許が話題になっているが、交通弱者に十分に配慮しながら、地域内交通やLRTなどを市民生活にビルドインしていく抜本的な取組が求められていると考える。

- ・ 市民生活と行政サービスは切っても切れない関係にあり、市民が「幸せ」を感じられるよう、身近なところにも目を向けながら取り組んでほしい。

委員

- ・ 次期大綱の名称については、大綱が誰に向けたものであるか考えなければならない。
- ・ 市民が「行政改革」のイメージを共有できる名称が望ましく、今話題の「SDGs」も同様であるが、幅広い世代に理解されるよう、くだけた表現を用いることも考えてはどうか。

委員

- ・ 基本目標などで「持続可能なサービス」という文言を用いているが、非常に行政的でわかりにくい。

委員

- ・ 「基本目標」や「キャッチフレーズ」については、改めて議論する機会を設けてはどうか。

委員

- ・ 資料は全体的に、行政側からの視点に立っており、改めて市民目線に立って考えることも必要ではないか。

委員

- ・ 「基本目標」にある「持続可能」は、非常に重要な要素ではあるが、一般的にはわかりにくいかもしれない。
- ・ 資料2ページの図では、「行政経営の領域」の「行政サービス」と、総合計画の「施策・事業」との区別がつきにくい。行政改革には、財政などの行政経営基盤の面と協働などのサービス提供の面の二つの面があり、その面に絞って支えていくということを明確にした方がよいように思う。
- ・ 計画期間について、総合計画では、長期的なビジョンに基づく施策・事業を位置付けるが、「行政改革」はより短期的なスピード感のある取組でよいと思う。そうした意味では、大綱にはある程度具体性を持たせてもよいのではないか。
- ・ 「重点的な取組」としている「公・共・私の活力の結集」については、これまで公共的な活動を行ってこなかった人に目を向けていくような取組が求められているように思う。また、「先進技術の導入・利活用」については、技術革新のスピードが著しく速く、大きな可能性を持つ領域であることから、今後の行政改革・行政経営のポイントになると思う。

委員

- ・ 資料では、市民に「光が当たっていない」ように思う。市民が地域でどのように生活し、どのような活動をしているのか、市民目線で取り上げることが重要ではないか。
- ・ 「時代潮流等」では、ネガティブな環境変化のみを捉えているように感じる。「よい面」と「悪い面」の両面から考えた方がよい。

- ・ 「重視する価値」として「職員が職員でなければならない業務に注力できる」を挙げているが、限りある経営資源の中で、職員が何をどこまで担うべきかは、重要な問題である。アウトソーシングが進む中で、デスクワークのみを担うべきなのか、国や県と異なり、市役所は市民に最も近い行政機関として、市民に直接向き合って業務を行う役割を担っていることを十分に踏まえて、議論することが必要と考える。

委員

- ・ 限られた会議時間の中では、十分に意見を交わせなかったように思う。宇都宮市をより魅力あるまちとするにはどうあるべきか、一度、懇談会で意見を交わすこともよいと思うがどうか。

会長

- ・ 先ほど、意見のあった「基本目標」や「キャッチフレーズ」も含め、今回の会議の中では伝えきれなかった意見もあるかと思う。そのような意見がある場合には、後日、ファックスなどで提出していただければどうか。提出方法などについて事務局から案内してほしい。

4 その他

(事務局から、各種連絡)

事務局

- ・ 次回の懇談会は、10月頃の開催を検討している。
- ・ 本日の議事録を作成し、送付するので、確認をお願いしたい。
- ・ 先ほど会長から御発言のあった意見の提出については、改めて方法等をお知らせするので、可能な範囲でご協力をお願いしたい。

5 閉会

会長

- ・ 委員の皆様から多くの貴重な御意見をいただくことができ、感謝しているところであり、次回においてもそれぞれの立場から忌憚のない御意見をいただきたい。
- ・ また、御多用の中、恐縮であるが、次回の懇談会出席についても、御協力をお願いしたい。
- ・ 本日はありがとうございました。